

児童労働ネットワーク

2008 年度活動・決算報告

2009 年 10 月

## 2008 年度活動報告

(報告期間：2008年9月～2009年9月、13ヶ月間)

### <2008-09 年度活動計画>

#### <年間基本方針>

啓発活動を6月12日の児童労働反対世界デーに合わせたキャンペーンを軸として展開し、活動範囲、参加者の拡大を目指す。アドボカシー活動は、内部研究会を積み重ねて提言内容をまとめ、日本政府を対象とした提言活動を継続して行う。キャンペーンを活用して、市民の参加を提言活動につなげていく。

### <2008 年度全体の総括>

今年度は、昨年度に引き続き児童労働反対世界デー・キャンペーンを中心に活動を展開した。署名が7万筆以上集り大きな成果を得た。

さらに今年度は国際的なネットワークの構築にも取り組んだ。草の根市民基金・ぐらんより助成を受け、オランダとインドより海外ゲストを招いたシンポジウムの開催を通じ、他国のキャンペーン活動を学び、また連携を図る機運を生むことが出来た。

課題となっていた財政基盤の強化についても、缶バッジの製作を行い、新たな収入源を確立することができた。

### 1. 児童労働理解促進のためのキャンペーンの実施

2009年5月5日～6月30日にかけて「児童労働反対世界デー・キャンペーン2009」を開催した。児童労働ネットワークの19会員団体及び14キャンペーン賛同団体により、期間中18イベントが開催され、10,297人の参加を得た。

※キャンペーン実施内容、決算については資料児童労働ネットワーク短信第14号を参照されたい。

・助成：草の根市民基金・ぐらん

### 2. キャンペーン メインイベントの実施

2009年6月6日に「最悪の児童労働と少女 闇の子供たち上映会+シンポジウム」が開催された。詳細は児童労働ネットワーク短信第14号を参照されたい。

・共催：ILO 駐日事務所、NGOー労働組合国際協働フォーラム

### 3. 内部研究会の開催

2009年1月、2月に内部研究会を行った。

回・実施日	テーマ	会場	参加者
第1回 2009年 1月22日(木)	1. 他国 NGO の提言活動の研究 (事例： オランダ) Stop Child Labour Campaign の提言文書 “Child Labour, Trade Relations and Corporate Social Responsibility What the European Union should do” (仮訳：児童労働、貿易関係と企 業の社会的責任 – 欧州連合は何をすべき か) 2. DAC 加盟国の政策の比較研究 事例：イギリス (発表：文京学院大学教授 堀内光子) アメリカ ((特活) ACE 岩附由香)	丸幸ビル 3F 会議室	9名
第2回 2009年 2月26日(木)	1. 米国労働省の取り組みについて (発表：(特活) ACE 岩附由香) 2. 今後の児童労働ネットワークの国際 連携活動と、招聘事業について意見交 換	丸幸ビル 3F 会議室	10名

### 4. 日本政府を対象とした提言活動

2009年6月に海外ゲストお二人と共に外務省を訪ね、児童労働ネットワークの活動紹介、及び意見交換を行った。

「児童労働をなくそう 3万人署名」を2009年5月5日～7月30日に呼びかけたところ、最終的に74,396筆(昨年12,004人、昨年から比べて6倍)の署名が集まった。

この署名は、下記の事項の実現を、外務大臣、文部科学大臣、厚生労働大臣の三大臣に要請するものである。

今年は、ILO182号条約「最悪の形態の児童労働」の採択10周年にあたります。今年の児童労働反対世界デー(6月12日)のテーマは「最悪の児童労働と少女」でした。ILOによると、2億1800万人の児童労働者のうち、46%が少女です。その過半数が最悪の形態の児童労働で、その半数近くの約5300万人が少女です。12歳未満の児童労働は少年より少女の方が多く、初等教育を受けられていない子どもの数も少女のほうが多くなっています。

少女たちを児童労働から保護し、無償で質の良い教育を実現させる、この両方が今必要です。世界の児童労働撤廃に向けて、下記の実現を要請いたします。

1. 日本も批准している ILO 第 182 号「最悪の形態の児童労働」条約、第 8 条にあるように、最悪の形態の児童労働をなくすための国際協力を強化してください。また、児童労働に配慮した貧困削減や教育支援の国際協力を進めてください。
2. とくに、少女の置かれている厳しい状況に対し児童労働対策と教育の両方から取り組みを強化し、ミレニアム開発目標の中に掲げられている「初等・中等教育における男女格差を解消する」の実現に向けた国際協力を進めてください。
3. 二国間の ODA に占める基礎教育の割合を増やしてください。日本は他の先進諸国と比べて基礎教育の割合が大変低く、2005 年ではわずか 0.9% です。これを、先進国 22 カ国の平均 1.8% (2005 年、DAC 平均) まで、引き上げてください。\*
4. 以上のことを実現するために、関係省庁と JICA、NGO、労働組合等が意見交換を行う会議を開催し、定期的な協議の場を設置してください。

\*データ出典：教育協力 NGO ネットワーク (JNNE) 政策提言文書 「万人のための教育 2008 年 G8 サミットに向けた日本の役割」

## 5. 国際的なネットワークの構築

当初海外から Stop Child Labour Campaign (ストップ児童労働キャンペーン—学校が最良の解決策) のジェラルド・オヌック氏 1 名の招聘を予定していたところ、オヌック氏からの提案で児童労働が起きている現地で行き組む NGO、M.V.Foundation のディレクターであるラガット・ベンカット・レディ氏を併せて招聘することを決めた。

ところが 6 月 5 日にオヌック氏の体調不良により来日できなくなり、急遽国際コーディネーターのヴェロニク・フェイエン氏が代役として来日した。

主な活動としては、外務省訪問、NGO メンバー向けのセミナー、また一般向けのシンポジウムを開催した。なお、このシンポジウムについては法政大学大原社会問題研究所と児童労働ネットワークの共催で行われた。

- ・ 共催：法政大学大原社会問題研究所
- ・ 助成：草の根市民基金・ぐらん
- ・ 協力：日本航空

ゲスト来日中のスケジュール

日時		会場
2009年6月23日、24日	ゲスト来日、プログラム内容についてのブリーフィング、打ち合わせ	(特活) ACE 事務所
2009年6月25日	堀内代表と顔あわせ、挨拶、打ち合わせ	(特活) ACE 事務所
	外務省 国際協力局 地球規模課題総括課 (Global Issues Cooperation Division) 麻妻企画官他と面談	外務省
	NGO 向けセミナー (英語) How to Advocate? ～ Learning advocacy skills from Activists from India and EU～	文京学院大学
	歓迎夕食会	インド料理レストラン (御徒町)
2009年6月26日	朝日新聞取材	朝日新聞本社
	国際協力 NGO センター総会後のレセプションへ出席	早稲田奉仕園
2009年6月27日	シンポジウム「児童労働の現状と NGO の政策提言ーインドと EU の経験に学ぶー」	法政大学
	夕食会	
	プログラム振り返り	
2009年6月28日	来日ゲスト帰国	

児童労働ネットワーク 海外招聘プログラム 予算及び決算			
収入			
項目	予算	決算	備考
助成金	250,000	250,000	ぐらん・草の根基金より
シンポジウム参加費	35,000	0	500円×70人の当初予定だったが、無料化した
合計	285,000	250,000	
支出			
項目	予算	決算	備考
会場費	9,500	0	共催・協力・協賛依頼
海外ゲスト謝金	100,000	100,000	50000×2人(日当含む)
広報・印刷費	10,000	0	チラシ印刷、資料印刷
宿泊費	64,000	66,290	8000円×5日間×2人
国内交通費	17,000	10,070	空港往復+移動費(3000円×往復×1人+3000円×往復×ゲスト2人)+日本国内移動費
海外ゲスト渡航費	0	190,515	協賛の見込みが外れ、割引に留まる
海外ゲスト各国移動費	0	30,741	インド国内航空運賃
パネリスト謝礼	80,000	10,000	ゲストパネリストへの謝礼
通訳謝礼	0	0	ボランティアで依頼
送料	0	4,140	ゲストへのビザ申請書類送付代(インド)
予備費	4,500	0	
合計	285,000	411,756	
収支			
収入合計ー支出合計	0	-161,756	児童労働ネットワーク本体予算より拠出

## 6. 財政基盤作り

財政基盤作りとして、オリジナルの缶バッジを製作して販売した。2個セットで一つには「STOP CL」のメッセージを、もう一つにはガーナの子どもたちが描いた絵をのせており、片方は友達へというコンセプト。販売は①キャンペーン賛同団体や会員への卸し販売（300円）②CL-NETから直接販売（500円）の二通りで行った。3,000個を製作し、約1,500個を販売、133,767円の収益を上げた。

缶バッジ決算		2009年9月30日	
<b>【収入】</b>			
項目	2009年予算	2009年決算	内訳等
缶バッジ	900,000	483,500	
<b>収入合計(C)</b>	<b>900,000</b>	<b>483,500</b>	
<b>【支出】</b>			
項目	2009年予算	2009年決算	内訳等
缶バッジ作成費	480,000	328,946	缶バッジ2個セット作成費用(原価160円で計算、3000パック)
缶バッジデザイン料	20,000	20,000	缶バッジデザイン費用
振込手数料	0	787	銀行振込手数料
<b>支出合計(D)</b>	<b>500,000</b>	<b>349,733</b>	
<b>缶バッジ収支(C-D)</b>	<b>400,000</b>	<b>133,767</b>	



## 7. その他の活動、組織運営、会議

- ・運営委員会を計9回開催し、円滑な事業運営を図った。
- ・児童労働ネットワークのウェブサイトの運営、問い合わせへの対応、キャンペーン事務局の業務、海外招聘事業の連絡調整等を事務局がボランティア動員も含めて行った。
- ・児童労働反対世界デーキャンペーンメインイベントの主催団体の会議である三者会議に、CL-NET 運営委員より伴野氏、大島氏が出席し、イベントの企画・運営について審議を行った。
- ・ぐらん草の根市民基金の公開審査会に岩附がプレゼンを行い、堀内氏、塩田氏が参加した。
- ・ぐらん草の根市民基金の交流会に塩田氏、伴野氏が参加し、缶バッジの販売や児童労働ネットワークの紹介を行った。
- ・キャンペーン運営、および海外招聘事業の実施にあたり、当初採用したインターンの方が自己都合でやめられたため、アルバイトスタッフとして事務局を務めるACEが下川佳子氏を4月～8月にわたり雇用し、CL-Net 担当として業務にあたっていただいた。
- ・CL-NETのウェブ更新は、ACEボランティアの嶺脇氏に依頼した。

## 2008 年度決算報告

【収入】			単位 (円)
科目	2008年度予算	2008年度決算	内訳等
<b>1. 会費収入</b>	<b>353,000</b>	<b>376,000</b>	
(1) 正会員	350,000	375,000	団体会員 1万円×34口(昨年度未収分2口を含む) 個人会員 5千円×7口
(2) 協力会員	3,000	1,000	個人協力会員 1千円×1口
<b>2. 寄付金・賛同金収入</b>	<b>50,000</b>	<b>6,429</b>	個人寄付×4名様
<b>3. 事業収入</b>	<b>330,000</b>	<b>777,376</b>	
(1) キャンペーン	300,000	293,876	キャンペーン総収入からCL-Net予算よりの拠出を抜いた収入分
(2) イベント、その他	30,000	0	
(3) 缶バッジ	0	483,500	
<b>4. 助成金収入</b>	<b>500,000</b>	<b>500,000</b>	
<b>5. その他収入</b>	<b>0</b>	<b>75,040</b>	ラジオ出演料31,164円(15,582円×2回)、銀行利息 165円、 昨年キャンペーン未収分 43,711円
<b>当期収入合計 (A)</b>	<b>1,233,000</b>	<b>1,734,845</b>	
<b>前年度からの繰入金</b>	<b>291,378</b>	<b>291,378</b>	
<b>収入合計 (B)</b>	<b>1,524,378</b>	<b>2,026,223</b>	
【支出】			
科目	2008年度予算	2008年度決算	内訳等
<b>1. 事業費</b>	<b>815,000</b>	<b>1,242,744</b>	
(1) キャンペーン	300,000	481,255	署名関連費用 9279円を含む。詳細はキャンペーン決算を参照
(2) 提言活動	5,000	0	
(3) 内部研究会	0	0	
(4) 国際ネットワーク連携	250,000	411,756	海外ゲスト招聘イベントの開催
(5) 財政基盤作り (缶バッジ)	250,000	349,733	航空券、国内移動費、宿泊費、講師謝礼、送料、振込手数料
(6) イベント・その他	10,000	0	
<b>2. 管理費</b>	<b>418,000</b>	<b>393,999</b>	
(1) 通信費	10,000	8,345	送料、交通費
(2) 消耗品費	10,000	15,124	文具、紙等
(3) 印刷費	150,000	108,130	印刷機・コピー機利用代 15,896円 短信入稿・印刷代 54,753円
(4) 事務局運営費	240,000	260,000	20000円×13カ月
(5) ウェブ維持費	8,000	2,400	ドメイン管理料
<b>3. 予備費</b>	<b>291,378</b>	<b>560</b>	振込手数料
<b>支出合計 (C)</b>	<b>1,524,378</b>	<b>1,637,303</b>	
<b>当期収支差額 (A)-(C)</b>	<b>0</b>	<b>97,542</b>	
<b>収支合計 (B)-(C)</b>	<b>0</b>	<b>388,920</b>	
<b>次年度への繰越金</b>	<b>0</b>	<b>388,920</b>	

## (参考資料) 2009年9月時点での正会員団体・個人

### ■団体正会員

- (特活) アジア日本相互交流センター (ICAN)
- (社) アムネスティ・インターナショナル日本
- (特活) ACE
- (特活) エファジャパン
- (特活) 国際子ども権利センター
- 国際食品労連日本加盟労組連絡協議会 (IUF-JCC)
- 国際労働財団 (JILAF)
- (特活) グッドネーバーズ・ジャパン
- グローバル・ヴィレッジ
- (社) セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
- Save Children Network
- (特活) ソルト・パヤタス
- (特活) 日本オーガニックコットン流通機構
- 日本労働組合総連合会
- 働く子どもの『遺産と伝説』キャンペーン
- (特活) フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
- UIゼンセン同盟
- フード連合
- フェアトレード・リソースセンター

### ■個人正会員 (敬称略)

- 長谷川 真一
- 堀内 光子
- 長坂 寿久

以上